



(7)

▽水俣港は明神崎の北側にある
 梅戸港、その南側の湾を隔てた
 向こう岸にある百間港の二港から
 なっている。貿易港になって六年
 目のまだ赤ん坊ミナトだが、水俣
 の海運事業の歴史は古い。水俣は
 江戸時代初期から昭和
 初期まで、いまの水俣
 川尻付近がミナトで特
 産物を天豆、糠北地方
 へ積み出していた。と
 ころが、たびたびの洪
 水で河床が高くなった
 うえ昭和七年ごろから

水俣

行なわれた河川改修工事、川口付
 近が埋め立てられミナトの機能が
 とまった。
 そのとき代わって浮かび出したの
 が百間港で当時小さな船だまり
 にすぎなかったのが自然条件を
 高く買われ水俣川の改修完成と
 同じ昭和十二年に港内の二五
 ㎡(一畝)と延長七百四十六
 ㎡の岸壁がつくられ、二十四年
 にはさらに四千年総務事業で岸
 がしゅんせつと埋め立てを行な
 う。このころ諸施設も整備、深き

棧橋もでき一畝ミナトとしての
 条件をそなえるにいたった。同
 港は水深、本渡航路の起点でも
 あり、水俣と天豆の経済交流と
 観光に重要役割を果たしてい
 る。

三角しのぐ外貿

ドベしゅんせつが悩み

▽：水俣港は明治四十二年水俣に
 日露の肥料工場が設立されてから
 日露専用港としてデビューしたも
 ので大正五年から岸壁三百八十一
 ㎡の築造と四一九㎡のしゅんせつ
 が行なわれたうえ、島からの臨港
 船車も付設され工業港としてお目
 見えした。その後のしゅんせつに
 マンシヤアクリンカー、その他木
 竹材などを合わせて二万三千六百
 ㎡(四億五千二百五十六万円)輸
 入が、入船石など新日露の原料鉄
 石類九万五千七十九ト(八億五千
 一百万六千円)計十三億二千四
 百六十五万六千円、三十二年度に

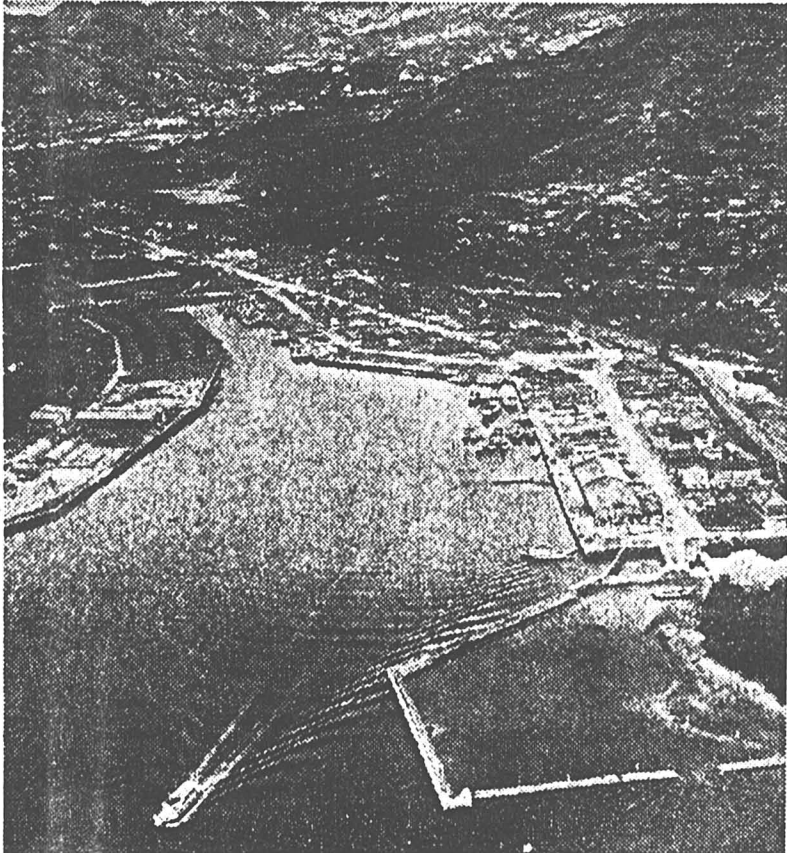
年らしい化学肥料製造から大きく
 脱皮、塩化ビニール、合成樹脂
 可溶性、工業薬品原料などの生
 産に拍車をかけ、現在年間総
 売り上げ百四十億円と東下工場
 のトップをゆくめざましい躍進
 ぶり。これに昨年三月、マグネ
 シアアクリンカー(耐火レンガ原
 料など)をつくる新日本化学が
 加わった。生産能力は三十五年
 度七万五千ト(十一億七千五百
 万円)全国第二位。同年度は梅
 戸港や水俣駅から東京、大阪、
 名古屋、北海道方面へ二万四千

らへ実に三倍強の飛躍、外国船の
 出入数も三十五年度は約百隻で外
 貿は古い歴史を持つ三角港をしの
 ぐ隆盛ぶり。
 また百間港の木材、竹、繊維原
 料などの移出と石灰、重油類な
 どの移入も合計九十二万三千七
 百トで、これまた三十二年度の
 四十九万七百三十三トの二倍以
 上の実績だ。

力な運動をつづけている。市の
 貿易港で検査所がないのは九州で
 はこれだけ、という事情があるう
 え貿易額がめざましく増大してい
 るので検査所設置は九分九厘まで
 大じょうぶといった見方が強い。
 同港には二万ト級の大型船舶も
 入港するが、ドベのしゅんせつ
 が不完全なので岸壁への横づけ
 ができず、変路内側の深い海
 域に停泊を余儀なくされハシケ
 で積荷の揚げ降ろしをしてい
 る積。港内の完全しゅんせつ
 と整備が望まれるゆえんだ。果

は三十二年度から第一期工事と
 して工費四千五百二十一万四千
 円で百間港の整備を行なってお
 り、すでに長さ百十五尺の物揚
 げ場(七百五十五万四千円)と
 長さ百尺、高さ五尺の岸壁四
 度内には完成させたい方針とい
 ろが、漁民から「ドベをかきま
 せれば水俣病再発のおそれがあ
 る」と苦情が出るなど、いろい
 ろと困難な問題が横たわってい
 るようだ。

てゆく計画なので水俣港の海外貿
 易額は現在の数倍にはね上がるこ
 とも予想される明るさだ。それだ
 けに百間港はもうろん梅戸港も工
 場発展にともない諸施設がすでに
 限界点にきているとして根本的な



空からみた水俣百間港 海上を走る密船は水俣

一 牛渡航路(船目号からうす)

百五十万円)また物揚げ場に通
 する長さ十八尺、幅八尺の鉄筋
 コンクリート橋(八百九十一万
 円)がそれぞれ完成している。
 しゅんせつ(十三万三千立方尺、
 二千四百立方尺)も三十二年

しかし新日露がゆくゆくは塩ビな
 再整備が強くのぞまれている。
 どの輸出もしたい考えであるゆえ
 新日本化学も将来は輸出まで持っ
 (おわり)